

小・中学校における伝統・文化を生かした教育の充実

文化審議会文化政策部会

H・17・10・17

東京會館本館

山西 実

1 はじめに

2 これからの教育の目指すもの

(1) 21世紀の教育の目指すもの = 中教審答申(H15)

自己実現を目指す自立した人間の育成

豊かな心と健やかな体を備えた人間の育成

「 - - - 美しいものに感動する心、生命を大切に作る心 - - -」
を学び身に付ける教育を実現する - - -」

「知」の世紀をリードする創造性に富んだ人間の育成

新しい「公共」を創造し、21世紀の国家・社会の形成に主体的に参画
する日本人の育成

日本の伝統・文化基盤として国際社会を生きる教養ある日本人の育成

「 - - - 自らの国の地域や伝統・文化についての理解を深め、尊重する
態度を身に付けることにより、人間としての教養の基礎を培い - - -」

(2) 現行学習指導要領のねらい = 基準の改善のねらい

= 常態の見直し

豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚

= 豊かな心の育成や主体的によりよく生きようとする資質や能力

自ら学び、自ら考える力

= 生きる力を育む学習指導の一層の推進

基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育

= ゆとりある教育活動や個性を生かす教育の実現、

学びのすすめ

各学校が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくり

= 各学校の創意工夫を生かした教育活動の展開、家庭や地域社会、人材
・施設や様々な活動との連携を図った開かれた学校づくりの一層の推進

(3) 教育課程編成の対応

生きる力の育成と創意工夫を生かした教育の推進
道徳、体育・健康に関する指導の充実
選択教科の拡充
総合的な学習の時間の充実
時間の弾力化
ガイダンス機能の充実
個に応じた指導（少人数指導、習熟の程度に応じた指導等）
コンピュータ等の情報手段の活用 等

3 小・中学校における取り組み例 = 適切な計画と実施

(1) 小学校

国語科 2年「語り手になって昔話を読もう」
おもしろく楽しい話　こわくときどきする話　心温まる話
生活科 2年「名人登場」
民話　和太鼓　笛　民謡　伝承遊び
国語科 3年「世界のお話を楽しもう」「本の紹介や音読発表会をしよう」
語り継がれたお話
「地域で活躍している人にインタビューをしよう」
総合的な学習の時間 3年「大発見！私たちのまちのステキ」
郷土芸能　文化財　町並み　民族　地域産業　等
社会科 3・4年「きょうどにつたわるねがい」「昔のくらし」
音楽科 3年「楽しもうわらべ歌」
あんたがたどこさ　大なみ小なみ　おしくらまんじゅう
ずいずいずっころばし　通りゃんせ　等
他にも各教科の学習指導要領に即して
道徳 低学年 4 - (4)「郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ」
中学年 4 - (6)「我が国の文化と伝統に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国人の人々や文化に関心をもつ」

高学年 4 - (7) 「郷土や我が国の文化を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ」

実践事例別紙 (6 年)

「心のノート」の活用 = キーステーション

学校行事 学芸的な行事 (5 ・ 6 年) 「民話劇を発表しよう」

旅行・宿泊的行事 (6 年) 「思い出に残る修学旅行」

運動会 (全学年) 「地域の民謡 (音頭) を踊ろう」

クラブ活動等 「郷土文化クラブ」

学校研究課題 「ふるさとを愛し、地域に生きる子ども」

「地域理解を深め、地域に根ざした未来を拓く子の育成」

「豊かな伝統文化を通し郷土愛を育成する」

国や地方教委主催の行事参加 等

(2) 中学校

国語科 1 年 「古典の味わい」「物語のおもしろさ」鑑賞

国語科 2 年 「古典のひびき」音読・朗読 平家びわ

国語科 3 年 「古典の詩歌」「詩歌の響き」音読・鑑賞

国語科 (選択) 「百人一首を楽しもう」「狂言のリズムを味わおう」

社会科 1 年 「貴族文化を調べよう」

社会科 (選択) 「身近な地域の歴史調べ」

美術科

美術科 (選択)

音楽科 1 年 「越天楽」 笙 箏 箏 箏 箏 の見本 締太鼓

音楽科 2 年 歌舞伎「勸進帳」 2 台

音楽科 3 年 箏曲「六段の調べ」鑑賞

音楽科 (選択) 「郷土芸能に触れよう」「箏曲を演奏しよう」

道徳 4 - (8) 「地域社会の一員としての自覚をもって強度を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める」

4 - (9) 「日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。」

「心のノート」の活用

実践事例別紙

総合的な学習の時間「郷土の先人に学ぼう」

学校行事 学芸的な行事 「ふれあい講演会」「地域とのジョイント演奏会」

旅行・宿泊的行事「自然探究教室」「修学旅行」「雅楽鑑賞会」

部活動 伝統文化部・茶華道部・郷土芸能部

他にも各教科の学習指導要領に即して

国や地方教委主催の行事参加

本物の舞台芸術体験事業

4 越谷市立越ヶ谷小学校の実践

総合的な学習の時間（3年）

総合的な学習の入門、導入として「郷土」を位置付け、問題解決的な学習の学び方の基礎を培うとともに、体験を通して地域文化の関心を高め、地域越谷を愛する心情を育てようとカリキュラムの検討を行った。この学習を基盤にしないと、環境や情報、福祉、国際理解の総合的な学習につながらないと考え「大発見、わたしたちのまち越ヶ谷のすてき」をいちづけた。

特に次の視点から郷土の教材開発を試みた。

歴史的景観（町並み、寺社、石塔、塚など）

地場産業（武州人形、だるま、桐たんす、桐小箱、手焼きせんべいなど）

民族（祭り、木遣り、太鼓など）

自然環境（巨木、自然林、市鳥、絶滅危惧種など）

地域の産物（ねぎ、くわい、チューリップなど）

町の建物や公共施設（蔵、市役所、公民館、図書館、駅など）

新しい文化の創造（民間会社の広報部・阿波踊り）

そのために学習の立ち上げ触れる活動では次の活動を行う

越谷に関する映像資料の活用（名所、旧跡、人材、文化財、磁場産業等）

地域をフィールドワークする（蔵の町並み、寺社、石塔、塚、古木、お店、川などの自然など）

だるまづくり、人形づくりを見学する

越谷自慢やよさの話や演技にふれる。

自分の課題や友だちの課題に気づく グルーピングを図る 各グループの

テーマに従い活動する 中間発表会を開く 来校者に越谷自慢を案内する・越谷自慢パンフレットを作成する 展示や発表会を市役所ホールや商工会館で行う 「道德の時間」に郷土の文化のすばらしさについて話し合う。(住宅の蔵を借用する) 各自のまとめを行う。なお、越ヶ谷小学校では、年間延べ約700名の外部人材を導入するなど指導体制の整っている学校である。

越ヶ谷小学校木遣り保存会の復活

伝統芸能として郷土に伝わる「木遣り歌」を越谷市木遣り保存会の人々の協力を得て、毎週金曜日の放課後1時間程度練習することにした。クラブ活動に位置づけるという方法もあるが、できるだけ小さい頃から伝統芸能に直接触れさせたいという思いと できるだけ多くの児童に活動させたいという思いでクラブ活動とは別の組織にする。メンバーの獲得が大きな課題であるが、できるだけ発表の機会を増やそうと地域のお祭りだけでなく、市や商工会のイベントに学校から働きかけを行う。さらに、学校の音楽集会では木遣り保存会の木遣り歌で全校児童が静かに体育館に入場したり、卒業式には、校長自身が卒業式にふさわしい作詞を行い、その詩で歌い上げる中に来賓や卒業生が入場するという場を設定するなどそのよさを保護者にも理解させる。発表の場が多いと言うことは子供たちにも自信がついたり、やりがいを感じ、身近に親しむだけでなく、それを尊重し、継承・発展させていこうという意欲や態度が形成された。私どもの近くの小学校でも、里神楽、お囃子、謡いなどの伝統文化に取り組んでいる学校が見られる。

越谷市教育委員会では、毎年6年生を対象に劇場を借りて解説付きの「子供能楽劇場」などを開催し、優れた日本の伝統文化に振れる機会を用意してくれている。事前学習として校長講話を入れ、主体的な参加意欲を高めた。

5 越谷市立中央中学校の実践

教科教科の国語の時間に、地域の方をお招きして平家琵琶の鑑賞や音楽の選択の時間に地域の方をお招きして雅楽の鑑賞や楽器の操作などを学習している。社会科では十二単を実際に着用なども行っている。学校行事では奈良・京都の修学旅行ではボランティアのシルバーガイドさんに案内をお願いするほか、雅楽鑑賞会、狂言鑑賞会など本物に触れる活動を取り入れている。また文化祭には地域で伝統文化を継承している、越谷太鼓、越谷市里神楽、木遣りなどの団体や大正琴のグループを招聘し、交流を深めている。部活動では「伝統文化部」が外部講師を招聘し、定期的に茶道と箏曲の学習に取

り組んでいる。外国からの来客の時に大変好評を博している。越谷市教委主催で年に一度市内の伝統文化に取り組む学校の発表と交流をかねて日本伝統文化の館で「越谷市小中学校日本伝統文化の集い」を開催し、伝統文化に親しみと愛着をもてるようにしている。

6 現状と課題

(1) 教師の余裕と発想 = 企画者・調整者の必要

数十とあってよいほど緊喫の課題として対応（食育、情報リテラシー、キャリア教育、学力低下、環境教育、消費者教育、福祉教育、規範意識、性教育、シラバスの作成等々の 教育）

学校の安心・安全の確保、外部評価や説明責任、教師の自己申告や自己評価等の問題

中学校の仕事の多様性（必修教科、選択教科の拡大、総合的な学習の時間、道徳、特活、生徒指導等一人の授業への役割）

(2) 教育課程上の問題 = 学校教育の特色化

同一学年で共通の活動ができない現状（小学校では、少人数指導、習熟の程度に応じた指導等が優先、中学校では教科担任制のため不可能に近い）

教科等の授業時間の確保が最優先

選択教科等時間が細切れ

(3) 国際理解教育や豊かな国際性を育てる教育の調和と統一

諸外国に目を向けた指導に力点がおかれる傾向

体験活動もアンバランス（平成5年6月に実施された道徳教育推進状況調査の体験活動の内、「伝統工芸や伝統芸能を愛護する体験活動」は小中学校とも他の体験活動に比べて最下位。平成15年の調査「文化や伝統に親しむ体験活動」は小学校で47, 2%、中学校で39, 8%。

(4) 伝統文化の意義とねらい = 学校教育のねらい

後継者、専門家の養成か理解者の養成か（親しみ、創造する機会）

各種文化そのものがねらいか、方法か

伝える教育、伝わる教育

(5) 地域の教育力の発掘と条件整備

報償費や災害保険の予算化

地域の人材発掘の困難さ(地域間格差、青少年向きの指導者の養成)

学校の配分予算(備品購入等)

企業との連携(広報不足)

(6) 学校と外部団体との相互理解 = 協力指導体制の確立

学校の教育活動や生徒の実態の理解

専門性だけの押し付け

教師の文化理解やパートナーシップ

(7) 学校週五日制の意義の再確認 = 役割分担と文化気風の醸成

土・日の児童生徒の社会参加の在り方

公共施設の参加の不足

7 まとめ

日本伝統文化の実現は

子供の感性の柔らかなうちに行う教育の適時性

地域との連携を図った特色ある開かれた学校づくり

主体性のある国際感覚にあふれた日本人の育成

知・情・意バランスのとれた人間の育成

に連動する教育活動である。

別紙

配布資料

道徳 小学校授業事例 主題名「俳句が伝える日本の美しさ」

中学校授業事例「『心のノート』を活用した道徳授業」

越ヶ谷小学校木遣り保存会

越谷市立中央中学校雅楽体験教室、文化祭の越谷太鼓の交流

越谷市小中学校文化伝承の集い